

## 文化・芸術

### 〈名画の扉〉

大川美術館企画展「東海道五十三次漫画  
絵巻」と歌川広重「狂歌入東海道」から



#### 「東海道五十三次漫画絵巻 桑名」

1921年、紙本彩色  
24・7cm×33・0cm 大川美術館蔵

#### 山田みのる (1889~1925年)

山田みのるは東京美術学校西洋画科を卒業後、新聞や雑誌の漫画の仕事を手掛け、北沢楽天主催の国内最初のカラー漫画雑誌「東京パック」にも多くの作品を掲載します。

本作と同じ1921年には岡本一平の推薦で服部亮英とともに朝日新聞へ入社。漫画記者として時事的な風刺画のほか、23年の関東大震災ではいち早く被災地の現状を捉えた漫画を描き紙面で伝えましたが、活躍のさなか惜しくも35歳で亡くなります。

桑名を描いた本作、

(大谷)

人物をこっけいに生き生きと描いた山田。実際の写生旅行ではじっくりと焼かれるハマグリを食べる時間はなく、また雨の中、写生をしたようですが、本作は名物の焼きハマグリを大きな口を開けて食べる様子が表情豊かに描かれています。